

活動
紹介

日本語パートナーズ ラオス短期派遣

今年3月、国際交流基金(The Japan Foundation)と連携し、「日本語パートナーズ派遣事業」として、MIFAのメンバー5名がラオスに12日間派遣されましたので、ご紹介させていただきます。

「日本語パートナーズ」は、海外における日本語教育支援や日本文化紹介など、以下が主な活動です。

MIFAは今後も、日本語パートナーズの事業に関わっていきたくて考えています。ご興味のある方は、是非ともご連絡ください。

- 現地日本語教師のアシスタントとして授業をサポート
- 日本文化の紹介を通じて、派遣先の生徒や地域の人たちとの交流
- 現地の言葉や文化を習得



「日本語パートナーズ派遣事業」参加者の声



塩澤 真結さん(学生)

日本語で日本語を教えるという初めての体験に苦戦しました。自身はじめて英語に触れたときのことを思い出しながら授業をおこない、改めて言語学習の奥深さを知りました。ラオスには日本に興味を持っている若者がとても多く、生徒たちがテキストを片手に一生懸命日本語で話しかけてくれたことが強く印象に残っています。



横張 日菜子さん(学生)

わたしにとって教える立場に立つのは今回が初めてでした。文化紹介の内容を考えているときには、どのくらい伝わるのか、楽しんでもらえるのかなど不安に思うこともありましたが、文化紹介をしていく中で生徒の皆さんの最高の笑顔を見ることができて心から嬉しく思うと同時に教えることの楽しさを感じることもできました。



蔭木 隆さん

ピエンチャン高校で、日本の文化紹介をしました。守谷市の紹介を通して、日本の地理、交通、生活、食べ物、工場、神社、お祭りなどを説明したあと、お祭りを体験しました。お祭り体験は、お面をかぶってのひょっとこ踊り、縁日の出し物(射的、ヨーヨー釣り、輪投げ)でした。体験のあと、生徒たちに守谷市に行きたいかと尋ねたところ、全員が行きたいと言ってくれたのは、とても嬉しかったですね。



川名 敏子さん

ラオスとは“輝く人間”という意味だそうです。その名の通り素晴らしい人たちに会いました。学校で12歳から第二外国語を習わせてくれるラオスの教育は、かえって日本より進んでいると驚きました。年に一度の日本語スピーチ大会にも参加し、「一生懸命学び、夢を持とう！」と呼びかけた大学生が優勝。感動したと同時に教育支援こそ最重要だと感じました。



浅川 恭子さん

日本に関心を持ち、日本語を学ぼうと頑張っている人がたくさんいました。わたしたちから日本語や日本文化を学ぶ生徒たちは、とても楽しそうでした。メンバーそれぞれが役割を果たし、企画したものをすべて実践できてよかったです。わたしたちもラオスの文化と料理を楽しむことができました。このような機会をいただきありがとうございました。

～ MIFA とラオスとの交流～

この度の「日本語パートナーズ派遣事業」は、MIFAがラオスと24年に及ぶ交流を続けてきたことが高く評価されたものでありMIFAにとっては、とても名誉なことです。

ラオスとの交流は1999年11月にMIFAのメンバー5名(岡田、小川、笠原、西井、和田)が初めてラオスを訪問したことがきっかけです。

以来今日まで多くの交流が続けられてきました。特にラオス第2の都市ルアンプラバンにあるCCC(子供文化センター)からは生徒を守谷に招聘し深い交流を続けています。



MIFAにおけるラオス交流の実績

1) ラオスの学生の招聘活動

- 2001年11月 1期生 10名招聘
- 2008年 9月 2期生 15名招聘
- 2018年11月 3期生 15名招聘

2) ラオスのCCCにスタディツアー実施。

MIFAから学生委員会5名を含む11名参加(2002年3月)

3) 草の根技術協力事業(地域提案型)途上国の人材育成として、ラオスの教員を2名2ヶ月間守谷に招聘し研修を3年間実施。(2004年2月、9月、2005年10月)

総会開催報告

総会を5月21日に開催しました。総会の資料は、以下のwebページで公開しています。

お気軽にお問合せください♪
イベントや企画会議はログハウスでおこなっています。



[E-MAIL] contact@mifa.info



FACEBOOK QRコード



ホームページ QRコード



インスタグラム QRコード

